|  |
| --- |
| **５０５６．関税割当証明書内容呼出し** |

|  |  |
| --- | --- |
| 業務コード | 業務名 |
| ＴＱＢ | 関税割当証明書内容呼出し |

１．業務概要

「関税割当裏落数量仮登録（ＴＱＣ）」業務、「関税割当証明書内容訂正（ＴＱＥ）」業務、「関税割当裏落内容税関確認後訂正確認（ＣＱＣ）」業務に先立ち、各業務に利用しうる情報を呼び出す。

２．入力者

税関、通関業、輸出入者

３．制限事項

　なし。

４．入力条件

（１）入力者チェック

①システムに登録されている利用者であること。

②呼出し区分に「Ｔ」を入力した場合、関税割当証明書ＤＢに登録されているシステム登録依頼者と同一であること。

（２）入力項目チェック

（Ａ）単項目チェック

「入力項目表」及び「オンライン業務共通設計書」参照。

（Ｂ）項目間関連チェック

なし。

（３）関税割当証明書ＤＢチェック

①入力されたＮＡＣＣＳ用関税割当証明書番号が関税割当証明書ＤＢに存在すること。

②ＴＱＥ業務により、関税割当証明書内容削除の旨が登録されていないこと。

③「関税割当証明書内容確認（ＣＱＡ）」業務により、関税割当システム管理終了の旨が登録されていないこと。

④輸入者コード欄に入力された輸入者コードまたは法人番号で以下のチェックを行う。ただし、国内用輸出入者ＤＢにて輸出入者コードと法人番号が紐づいて登録されている場合は、相互に変換してチェックを行う。

（Ａ）関税割当証明書ＤＢに登録されている輸出入者コードが１２桁の輸出入者コードまたは１７桁の法人番号である場合は、入力された輸出入者コードが関税割当証明書ＤＢに登録されている輸出入者コードと一致すること。

（Ｂ）関税割当証明書ＤＢに登録されている輸出入者コードが８桁の輸出入者コードである場合は、入力された輸入者コードの先頭８桁が関税割当証明書ＤＢに登録されている輸入者コードの先頭８桁と同一であること。

（Ｃ）関税割当証明書ＤＢに登録されている輸出入者コードが１３桁の法人番号である場合は、入力された輸入者コードの先頭１３桁が関税割当証明書ＤＢに登録されている輸入者コードの先頭１３桁と同一であること。

⑤申告等番号の入力がある場合は、申告等番号及びＮＡＣＣＳ用関税割当証明書番号の組み合わせが関税割当証明書ＤＢに存在すること。

５．処理内容

（１）入力チェック処理

前述の入力条件に合致するかチェックし、合致した場合は正常終了とし、処理結果コードに「０００００－００００－００００」を設定の上、以降の処理を行う。

合致しなかった場合はエラーとし、処理結果コードに「０００００－００００－００００」以外のコードを設定の上、処理結果通知の出力を行う。（エラー内容については「処理結果コード一覧」を参照。）

（２）出力情報出力処理

後述の出力情報出力処理を行う。出力項目については「出力項目表」を参照。

６．出力情報

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 情報名 | 出力条件 | 出力先 |
| 処理結果通知 | なし | 入力者 |
| 関税割当証明書内容訂正情報 | 呼出し識別欄に「Ｔ」の入力がある場合 | 入力者 |
| 関税割当裏落内容登録情報 | 呼出し識別欄に「Ｕ」の入力がある場合 | 入力者 |
| 関税割当裏落内容税関確認後訂正確認情報 | 呼出し識別欄に「Ｙ」の入力がある場合 | 入力者（税関） |

７．特記事項

裏落内容の出力順序は仮登録を行った日時での降順とする。